

この実だより

《第205号》
2016年9月号

発行者
社会福祉法人 札幌この実会
札幌市西区西野969番地
TEL. 011-663-2233

座談会

これからの福祉を担う若者に
伝えたい事

後編

社会福祉法人 椛の会

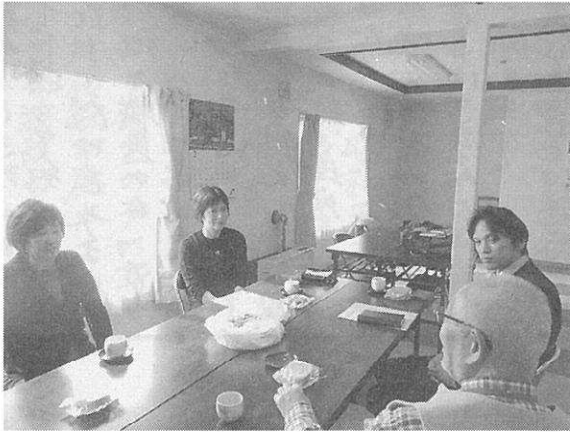
総合施設長 加藤 法子

社会福祉法人 HOP 理事長 田中 耕平

この実グループ下支え

加藤 孝

進行 この実支援センター 口屋 美子



田中

以前、相談を受けていた中途障がい
の男性がいて、これからのように
暮らしていかうかという話をしてい
たんですけど、怪我をしてから病院
の人や福祉の人と話をすることが多
いけど専門用語が多いよね。わか
ない話ばかりだと言っている。た
ね、そこも気をつけないとならない
よね。根本的な伝え方の所を見なお
さなきゃならないですね。

以下
加藤 法子
表記

加藤法子 親御さんへのアプローチをどう
するか、否定するのも違うだろうし、
そこが私が今難しいなと思っ
ているところですね。何にも支
援のない時代に障がいの重い子
を抱えて子育てをしながらお母
さんの苦勞を考えると、私がし
て、これだけ色んなサービ
スがあっても、幼児期の誰
も助けてくれないんだという
親の諦めとともには本人の
諦めになっている気がするん
です。お母さんたちの想いとい
うのは大変な話だと思
いますね。だから考えてい
かなきゃならないし、何かを講
じていかなきゃならないんです
けど、特に重心だと介護負担の
問題もどうしていかうかとい
う大変な状況の中でお付き合
いさせていたで、最近思うのは、
少し生老気なことを

田中

田中 以前、相談を受けていた中途障がい
の男性がいて、これからのように
暮らしていかうかという話をしてい
たんですけど、怪我をしてから病院
の人や福祉の人と話をすることが多
いけど専門用語が多いよね。わか
ない話ばかりだと言っている。た
ね、そこも気をつけないとならない
よね。根本的な伝え方の所を見なお
さなきゃならないですね。

法子

言わせてもらうと、人に対
して支援していくという根
本的な力が不足している若
い職員がすごく多いと思う
んです。私も含めて。寮長
たちがやってきたように、
人として関わったうえで支
援するんだという意識を持
って、それを前提として仕
事に入っていったほうがいい
と思うんです。仕事を始
める前に基本的に兼ね備え
ていなければならぬ装
備というか、それを持って
いない人が多いと思うので、
最近はその就職してから
作っていくかというとなら
ないのかなと思っ
ているんです
よ。

自分のこととして引きつけ
て、一緒に暮らしてそこか
ら学んで、寮長の所なんか
はやってきたんで、ようけ
ど、うちはどこから学ん
だかと思う。最近障がいのあ
る子が職員として入ってき
たりとか、手帳を持って
いないけどどうも発達障が
いかなと思っ
てる人が増えてきて

口屋

人と関わる仕事をやる人は人を大切に

法子

チームの信頼感というか、例えば男と女とか、若いとか年取ってるとか、どっかが自分が線を引くからあっちこっちが出来るんじゃないかと思って思っ

田中

僕が職員だったらそういう意識で仕事したいですね。色んな職員がいるけどいいところ悪いところ認め合ってるやっていきたい。そこは同意できる職員でない職員はわかってくれないんですよ。チームの信頼感というか、例えば男と女とか、若いとか年取ってるとか、どっかが自分が線を引くからあっちこっちが出来るんじゃないかと思って思っ

田中
法子

そういう話も良く聞きます。ある意味他の職員にとっては迷惑といえは迷惑だと思っんです。一緒に働けないから、でもそういうことを通して他の職員のサポート力がついてるんですよ。そういふ話も良く聞きます。

口屋

ずっと仕事してきて宇井さんにかなり

加藤孝
以下
兼長と
表記

向こうが俺をおっかながるかもしれないな。ごく自然体だよな。ウチでは今草の笑の宇井君がね、障がい重い人方、重心の人もウチに何人かいたから、彼は遊ぶっていうことは天下一品

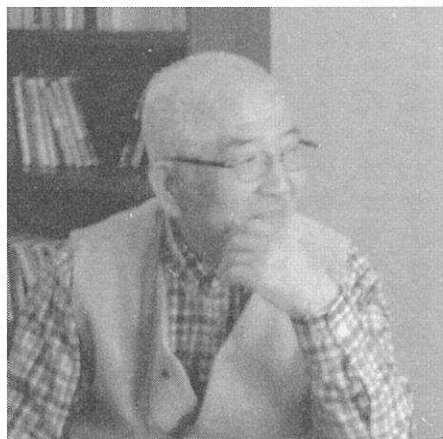
田中

この話うちの職員研修にーたいくらくらくですよ。僕が逆にお聞きしたいことがあるんですけど、未だに色んな困難な状況がある方とかご家庭とか、最近ですと罪と犯してーまった方とかと支援者として対峙するとき、正直言うところ不安になったりするんですよ。経験のない若い職員も皆そうだと思うんですよ。例えば重心の方の介護を三時間やってくださいと言われた時にすごいビビると思うんですよ。初対面だ。介護の仕方わかんないーみたいなこと。そういうことって兼長なんかもあつたんですか？おっかないなんて思っことはありましたか？

兼長
法子

人はいないと思っます。私は就職して一年目、宇井さんとずっと一緒だったんです。作業も、ご飯食べるのも、その一年ですごく勉強になって、この仕事にハマったと思っます。

やっぱり人ですもんね。福祉の勉強したんじゃないんですよ。その場で役割を持つんだよね、雰囲気を作るというか、我先に食べるといふ職員もいたけどそれは周りの雰囲気を作る為なのよ。それがごく自然にやるんだ。



兼長
法子

チームは意図的に作らないとならないかもいれないですね。多くの法人はね、ボスが能力のある奴を漬可んですよ。自分が権力者でいたから、俺は裏方人間だから、自分より能力のある職員を大きくさせる。皆

法子

抑えこんにやうんだよね。逆さまなの。私は寮長とお会いしてから、そこはやり思いうようになりましてね。自分が一人でやれること、って限りあるけど、色んなことに長けている人がいるんだから。お話し上手な人もいれば音楽が上手な人もいれば力仕事ができる人もいれば。これだけならあの人にやってみるからえるかもっていう。

口屋

今色々な研修もストレッチも視点、ってよく言われるじゃないですか。弱みと強みするのではなくて強みを伸ばしてあげる支援が必要なんだと。私それを利用してなくて職員にもそう思ってた採ったほうがいいと思うんですよ。

法子

苦手なことやわって言われても上手くならないですもん。時間費やすの勿体ない。

口屋

得意なところを伸ばしてやって、それでチームになればそれでいいんじゃないか。マルチな人間なんてそんなじゃないんですから。

寮長

施設っていうのは舞台だと思いうように。ありのままの自分をさらけ出さなから歌うか踊るか語るかっていう。これは舞台だと。演じないと駄目だと思いう時もあった。今はごく自然だけ

田中

僕はこの地域の子供だったんですけれど。この実会の存在は知っていたんですよ。西野の山の上にはこの実会という施設があつてとか、当時ラッキーか何が売ってたんじゃないですかね。今の舞台の話じゃないですけど、施設が誰に何を伝えていくのかというのには大きいのかもわからないですね。

寮長

例えば双子だつてさ、一卵性双生児っていつたつて皆違ふんだから、違いを知つた上で演じるといふことですよ。やっぱり舞台なんだ。それを忘れて権カだとか名誉や銭にしがみつくと。大切な仕事だし、楽しい仕事だと思つているので、一人でも多くの人を飛び込んで来てもらいたいと思うんですよ。

田中

すごくやりがいがあるわかってやすい仕事だと思ふんですよ。働きかけると返ってくるんじゃないですか。なのにどうしてこんなにイメージが悪くなつたんだらうかと思うんですよ。

口屋

ほんとに最近ではイメージ悪いですよね。学校でどうもさういふことを教えるようになってますよね。3Dとか。

法子

最近来習で学生が来るじゃないですか。話を聞いてると超過勤務や休日出勤とかを極端に嫌がるような風潮が強いので、仕事を始める前にすでに固定され

田中

最近来習で学生が来るじゃないですか。話を聞いてると超過勤務や休日出勤とかを極端に嫌がるような風潮が強いので、仕事を始める前にすでに固定され

法子

た労働意識がある。実際それは寂しいですよね。ボランティアしている学生も減っているからね。

田中

うちの職員も最近ではちゃんと整備された環境で働いてますよ。それはそれでいいとは思っていますけど。

法子

物を持っていないと駄目という価値観が大切にされていて、自分を創りだすことはね。材料も大抵は自分でもなんとかなるっていう強みのある人たちがそんなじゃない。そういう生き物としての弱さが背景にあるから。ちゃんと働けなきゃ。ちゃんと収入得られなきゃ明日はどうなるみたいな社会的な不安がさういふことにさせているんじゃないかと、どうも思うところもあるんですよ。



田中

収入が欲しいって言う話についても、開いていると今の若い人達は凄く欲しいわけじゃないみたいなんです。そこそこでいいみたいなんですけど、福祉の仕事に限らず収入とリスクというのは比例するわけですから、そのリスクは取りたくないもので、程よくあまり生活にも困らざる責任を負わず、無理もかからないという働き方を望んでいる人が多くなってきた感じがしますね。

法子

世の中を諦めている姿ですかね。この前三十代後半の人がこの仕事について来たんですよ。ある所の正職員なんだ。それでもこういう世界に飛び込むみたいっていう変わった奴が世の中にはいるんだ。

法子

そういう人がいる中で大半の人が不安を押しながら生きてるかなって。何でハマっていく人はハマっていく一方なのに。

田中

僕はこの実会で実習させてもらってその後小規模作業所に就職したんですよ。ね、それがホッですけれど、当時作業所はすごく貧困な世界だったんですよ。僕が就職した頃は給料が十数万円なかつたんじゃないかと思うんですけど、先輩から作業所の利用者さんは工賃ノ万圓くらいなんだからお前は十倍働けって言われたんですよ。それでも苦に

田中

ならなかったー楽しかったんですよ。収入とかは関係なかったけど、次第に生活環境も変わっていきいので、それだけじゃ駄目になっちゃいましたけど。そういうふうな考えられる人も今の若い職員の中にはいるんじゃないかと思っ

法子

いかに見つけてくるかというところ。どこの法人も採用試験に人が来ないとか、どこかに人はいないだろうかという話ばかりですよ。

法子

ある人は「僕なんか居酒屋でいいなと思っただら声掛けるよ」って言ってましたよ。別に福祉系でなくても、すごく気持ちよく人と接することのできる人でいいんだってね。

田中

僕と一緒に呑みに行った時にもやってましたね。従業員さんつかまえて「ウチで働かないか」ってやってますよ。



田中

人当たりが良かったり、元気が良かったり、体力ありそうだなと思ったりね。最近になって、施設の管理者をやらせて頂いています。ほんとは難しいなと思っ

法子

来長みたいに声を出していいことは避けても、手を繋いでやっていかないといけないですね。

田中

仲間作りって大事だと思っ

法子

直就職したての頃から来長をはじめ業界の先輩達に可愛がってもらいながら仕事をさせて頂いていますが、丁度四十歳になって今度は私達の世代が今の若い人達を巻き込んでいかないと出来ないのかなと思っ

田中

えて頂いたことを今度は教える役割になってきたのかなと思っ

法子

次の世代、大事なんだよ。結構四十歳前後でも頑張っている方も多く増えてきていて、今後は連絡を密にしていこうかなと思っ